

Contents

02

サステナビリティレポート2025について

03

編集方針

04

ヤクルトの企業概要

05

ヤクルトの事業展開

06

トップコミットメント

09

ヤクルトのはじまり

11

ヤクルトのサステナビリティ

27

環境活動報告

28

環境マネジメント

35

気候変動の緩和と適応

46

持続可能なプラスチック容器包装の推進

51

持続可能な水資源管理

54

生物多様性の保全

57

廃棄物・食品ロスの削減

59

社会活動報告

60

安全・安心な製品と情報の提供

65

地域社会との共生

70

強靱で持続可能なサプライチェーンの構築

78

地域に根差した健康の普及

80

多様な健康ニーズに応える健康価値の創出

84

従事者の健康・安全・安心

91

ヤクルトレディに対する取り組み

92

新しい価値を提供できるイノベータータイプな人材の育成

95

従事者の多様性の尊重

99

人権

106

顧客満足

109

ガバナンス報告

109

コーポレートガバナンス

116

リスクマネジメント

118

コンプライアンス

121

第三者意見

122

外部からの評価

123

ESGデータ集

マテリアリティ

地域社会との共生

ヤクルトグループ社会貢献活動方針

地域社会の一員として、地域の文化・慣習を尊重し、地域社会と協調しながら企業活動を推進しています。また、「良き企業市民」として社会に寄与することは企業の責任であると考え、従業員一人ひとりが積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。こうした活動は、「安全・安心」な地域づくりや健康な生活習慣の定着等、社会課題の解決にもつながっています。

2018年3月には「ヤクルトグループ社会貢献活動方針」を策定しました。本方針を基盤とし、今後は各活動をより深化させていきます。

ヤクルトグループ社会貢献活動方針

- ヤクルトグループは、社会に寄与する「良き企業市民」として、地域社会と協調しながら積極的に社会貢献活動を推進していきます。
1. 人々の健康で楽しい生活づくりにお役立ちすることを使命とし、活動します。
 2. 地域に根付いて活動するヤクルトグループの特長を活かして、社会課題の解決や文化・スポーツの振興に取り組みます。
 3. ステークホルダーとの対話を大切にし、協働・連携します。

策定 2018年3月20日

コミュニティへの投資額

ヤクルトグループ社会貢献活動方針に則り、地域社会の発展に寄与する活動を積極的に行っています。2024年度は、約2億円を地域への貢献活動に使用しました。

コミュニティへの投資額（社会貢献活動費）

年度	2020	2021	2022	2023	2024
投資額(百万円)	450	188	195	200	206

地域社会の健康づくり

ヤクルトは、おなかの健康に寄与する商品などのお届けとともに、その特性をきちんとお伝えし、理解して飲用していただくことで、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献したいと考えています。

ヤクルトレディは、商品をお届けする際に健康に関する情報もお伝えすることで、お客さまの健康に貢献しています。直接お届けできないお客さまには、地域のコミュニティや他社との協働により、「予防医学」や「健腸長寿」の大切さを分かりやすくお伝えしています。

健康情報の提供

ヤクルトレディによる健康情報の提供だけでなく、健康に関するテーマで専門家に講演していただく「健康フォーラム」を実施しています。また、健康・科学情報誌『ヘルシスト』の発行や、各種資材等を活用し、地域の皆さまの健康に積極的に貢献しています。

関連情報 P.108「ヘルシスト」

出前授業

各地域の販売会社社員が小学校などに出向き、「出前授業」を行っています。腸の大切さや「よいうち」を出すための生活習慣について、模型などを活用して、分かりやすく説明します。この取り組みは高い評価を受け、日本食育学会誌にも好事例として掲載されました。また、2015年には文部科学省主催の「青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞を受賞しました。

海外でも多数の国・地域で実施しています。2024年度の日本全国の実施回数は4,853回、参加者数は280,868人でした。海外では一部の国と地域でオンラインも活用し、実施回数は67,830回、参加者数は4,523,617人でした。

なお、2022年度にオンライン版の出前授業「おなか元気教室」を開発しました。これにより、オンライン開催のニーズにも対応できる環境が整いました。

Contents

02

サステナビリティレポート2025について

03

編集方針

04

ヤクルトの企業概要

05

ヤクルトの事業展開

06

トップコミットメント

09

ヤクルトのはじまり

11

ヤクルトのサステナビリティ

27

環境活動報告

28

環境マネジメント

35

気候変動の緩和と適応

46

持続可能なプラスチック容器包装の推進

51

持続可能な水資源管理

54

生物多様性の保全

57

廃棄物・食品ロスの削減

59

社会活動報告

60

安全・安心な製品と情報の提供

65

地域社会との共生

70

強靱で持続可能なサプライチェーンの構築

78

地域に根差した健康の普及

80

多様な健康ニーズに応える健康価値の創出

84

従事者の健康・安全・安心

91

ヤクルトレディに対する取り組み

92

新しい価値を提供できるイノベータティブな人材の育成

95

従事者の多様性の尊重

99

人権

106

顧客満足

109

ガバナンス報告

109

コーポレートガバナンス

116

リスクマネジメント

118

コンプライアンス

121

第三者意見

122

外部からの評価

123

ESGデータ集

健康教室

各地域の販売会社社員などが講師となり、「健康教室」を開催しています。センター（ヤクルトレディの販売拠点）や公共施設などを利用して、腸の大切さやプロバイオティクス、季節にあわせた健康情報など、幅広いテーマで実施してきました。近年ではその範囲を取引先（チェーンストア、受託給食会社など）にも広げ、健康教室のほか栄養相談会も開催しています。

2024年度の日本全国の実施回数は18,991回、参加者数は356,199人でした。海外では一部の国と地域でオンラインも活用し、実施回数は249,624回、参加者数は13,217,655人でした。

* 日本の一部の販売会社では、オンラインを活用して活動しています。海外では、フィリピン、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、インド、広州、中国、ブラジル、メキシコ、イギリス、ドイツ、オランダでオンラインを活用した活動を実施しています。

美容教室

健康と美容は密接に関係しています。健康に寄与する飲料・食品・医薬品とともに、化粧品を取り扱うヤクルトでは、美容教室を継続して実施しています。

販売会社社員やヤクルトビューティがお客さま、地域にお住まいの方々や法人に対して美容情報を提供したり、お肌の悩み相談会等を行ったりしています。

乳がん早期発見・治療の啓発

日本では、乳がんの早期発見・治療の啓発活動を行っている認定NPO法人 J.POSHのオフィシャルサポーターになり、ピンクリボン活動に協力しています。

インドヤクルトは、2024年10月、宅配のお客さま約50,000人を対象に、乳がんの早期発見・早期治療の重要性を広く社会に伝えることを目的として、啓発カードを作成・配布するとともに、すべてのヤクルトレディと宅配担当社員がピンクリボンバッジを身に着けて、一体感を持ってピンクリボン活動に取り組みました。

中東ヤクルトは、アラブ首長国連邦(UAE)の電子商取引(EC)運営企業Noonのプラットフォームを通じて、乳がん啓発月間キャン



健康教室(フィリピン)



美容教室



乳がん啓発月間キャンペーンのチラシ(中東)

ペーンのチラシ10,000部を配布するとともに、キャンペーン期間中の販売本数に基づき、約20万円を同国の医療支援NPO法人Al Jalila Foundationへ寄付しました。

糖尿病患者への健康情報提供(フィリピンヤクルト)

フィリピンヤクルトは、首都マニラ郊外の都市パラニャーケにおいて、年間を通じて「パラニャーケ糖尿病クラブ(DCOP) 月例会」の活動を支援しています。同会は、糖尿病についての意識向上と糖尿病患者が病気を管理することを目的としており、当社はサンプルの提供と栄養と健康に関する講義を行いました。

健腸プロジェクト(メキシコ)

メキシコヤクルトは、ヤクルトレディがお客さまに消化器官の働きや腸、腸内細菌などを説明する「健腸プロジェクト」を2014年から継続して実施しています。本プロジェクトは、学校教育で扱われる機会が少なかった消化器官の働きについて認知度を高めるべく開始されました。現在も、ヤクルトレディが「消化器官・腸の働き」「乳酸菌 シロタ株の有用性」「免疫機能」などのテーマに基づいたチラシを1週間に1枚お渡しし、腸の働きや乳酸菌 シロタ株の有用性を説明しています。

地域の「安全・安心」への貢献

愛の訪問活動

「愛の訪問活動」は、ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、高齢者と交流を深める活動で、1972年から続けています。この活動は、福島県郡山市の一人のヤクルトレディが、誰にもみとられずに亡くなった一人暮らしの高齢者の話に心を痛み、担当地域に暮らしている同じような高齢者に、自費で「ヤクルト」をお届けしたことが始まりです。販売会社や地域の民生委員の方々がその想いに共鳴し、自治体も動かして「愛の訪問活動」として、全国的に活動の輪が広がっていきました。

2024年度も継続して実施し、2025年3月現在、全国101の自治体等から要請を受け、約1,900人のヤクルトレディが約27,000人の高齢者のお宅を訪問しています。

海外では、韓国ヤクルトにおいて一人暮らしの高齢者約30,000人の安否を確認する活動を継続しています。

Contents

- 02 サステナビリティレポート2025について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 09 ヤクルトのはじまり

11 ヤクルトのサステナビリティ

27 環境活動報告

- 28 環境マネジメント
- 35 気候変動の緩和と適応
- 46 持続可能なプラスチック容器包装の推進
- 51 持続可能な水資源管理
- 54 生物多様性の保全
- 57 廃棄物・食品ロスの削減

59 社会活動報告

- 60 安全・安心な製品と情報の提供

65 地域社会との共生

- 70 強靱で持続可能なサプライチェーンの構築
- 78 地域に根差した健康の普及
- 80 多様な健康ニーズに応える健康価値の創出
- 84 従事者の健康・安全・安心
- 91 ヤクルトレディに対する取り組み
- 92 新しい価値を提供できるイノベティブな人材の育成
- 95 従事者の多様性の尊重
- 99 人権
- 106 顧客満足

109 ガバナンス報告

- 109 コーポレートガバナンス
- 116 リスクマネジメント
- 118 コンプライアンス
- 121 第三者意見
- 122 外部からの評価
- 123 ESGデータ集

■ 地域の見守り・防犯協力活動

担当地域に毎日商品をお届けしているヤクルトレディは、地域のすみずみまで目が届くことから、全国1,092の自治体、警察等と連携して地域を見守り、「安全・安心」へのお手伝いをしています。お客さま宅に異変を感じたヤクルトレディが警察署に通報し、署員がお客さまを発見・救助した等の事例もあります。2025年3月現在で、全国96社*の販売会社で組織がつくれ、地域の「安全・安心」に貢献しています。

また、中央研究所では、2015年から「ピーポ君の家」に協力しています。子どもたちが登下校時や下校後に「声かけ、ちかん、つきまとい」等の被害を受けたり、身に危険を感じたりしたときに、助けを求めることができる緊急の避難場所に指定されています。

※ ホールディングス会社傘下の販売会社を含む。

■ 障がい者支援施設への支援

各都道府県の遊技事業協同組合を通じ、福祉施設を利用する障がい者の方々へ労働機会を提供することで、社会活動への参画を支援しています。遊技場で来店客に配布するヤクルト製品に、年賀や暑中見舞い等のあいさつのシールを貼り付ける作業を依頼しています。2024年度は25都道府県55施設に、合計約55万本を依頼しました。

■ 自動販売機による社会貢献活動

ヤクルトグループでは2025年3月末時点で、日本国内に約3万7千台の自動販売機を設置しています。

これらの自動販売機の中には、地域の皆さまや支援が必要な方々の役に立っている社会貢献型自動販売機もあります。

また、すべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインの自動販売機や、大地震等の災害時に機内の商品が無償提供する災害救援型自動販売機、防犯活動に役立つ監視カメラのついた防犯型自動販売機を設置しています。

このほかにも、キリンビバレッジ株式会社と協業して、売上金の一部を公益財団法人日本対がん協会に寄付するピンクリボン自動販売機の設置を進めており、2025年3月末時点では、全国合計で272台稼働しています。



ピンクリボン自動販売機

■ 災害支援活動

地域の「安全・安心」を目指すヤクルトでは、積極的に災害支援活動に協力しています。

茨城工場・富士裾野工場・兵庫三木工場では、「災害時における応急給水に関する協定書」等の協定を締結しています（五霞町、裾野市、三木市）。海外においても、地震や台風等の自然災害が発生しやすい地域にも生産拠点があることから、災害発生時に速やかに支援することができるよう、体制を整えています。

中央研究所では、災害発生時における避難者への生活用水の供給に関する協定を国立市と締結しています。また、国立市内にある消防署の出張所2か所において、24時間体制で防災活動を行っている消防署員に対し、大規模地震等の災害が発生した際に、中央研究所に備蓄している生活用水を供給する協定を締結しています。

■ 高齢者の見守り(中国ヤクルトグループ)

旧暦9月9日の重陽節は中国の伝統的な敬老の日です。高齢者の健康を守るという考えのもと、中国ヤクルトグループでは、上海、北京、天津、福州、廈門、南昌、衡陽、昆明の8都市11か所の宅配センターのヤクルトレディが地元コミュニティと高齢者施設を訪問して、658人の高齢者を慰問する「益起楽享生活」活動を実施しました。

この活動は2020年から展開しており、今年は昆明の2つの宅配センターが初めて参加しました。10月7日から18日の活動期間中、ヤクルトレディがお年寄りを訪問し、体調を尋ねたり、慰問カード、花、ヤクルトのギフトバッグを贈ったりしました。また、高齢者施設も訪問し、入居者に腸の健康をテーマにした健康教室を開催したほか、歌、ゲーム、指の体操などを一緒に楽しみました。



高齢者施設での健康教室(中国)

Contents

02

サステナビリティレポート2025について

03

編集方針

04

ヤクルトの企業概要

05

ヤクルトの事業展開

06

トップコミットメント

09

ヤクルトのはじまり

11

ヤクルトのサステナビリティ

27

環境活動報告

28

環境マネジメント

35

気候変動の緩和と適応

46

持続可能なプラスチック容器包装の推進

51

持続可能な水資源管理

54

生物多様性の保全

57

廃棄物・食品ロスの削減

59

社会活動報告

60

安全・安心な製品と情報の提供

65

地域社会との共生

70

強靱で持続可能なサプライチェーンの構築

78

地域に根差した健康の普及

80

多様な健康ニーズに応える健康価値の創出

84

従事者の健康・安全・安心

91

ヤクルトレディに対する取り組み

92

新しい価値を提供できるイノベティブな人材の育成

95

従事者の多様性の尊重

99

人権

106

顧客満足

109

ガバナンス報告

109

コーポレートガバナンス

116

リスクマネジメント

118

コンプライアンス

121

第三者意見

122

外部からの評価

123

ESGデータ集

健康増進・スポーツ振興

ヤクルトグループは、各種スポーツの振興と地域・社会貢献活動を積極的に行うことで、健康増進に寄与するよう努めています。

■ 野球教室

プロ野球のシーズンオフに、「東京ヤクルトスワローズ」の現役選手による野球教室を全国で開催しています。また、NPO法人「つばめスポーツ振興協会」を2005年に設立し、東京ヤクルトスワローズOBによる野球教室を全国で開催しています。

2024年度は、東京ヤクルトスワローズ現役選手による野球教室を全国9会場、OBによる野球教室を7会場で実施しました。

■ 投げ方教室

近年、小学生の運動能力の低下、特に投力の低下があります。ヤクルト球団では小学校・幼稚園などからの依頼を受け、「投げ方教室」を中心とした出前授業を開催しています。この出前授業では子どもたちのチャレンジを醸成することに重きを置き、2024年度は103回開催、約10,000人が参加し、過去最高の実施回数・参加人数となりました。

また、2027年からファーム施設が移転予定の守谷市の小学校3校でも実施しました。移転に向け来年以降も実施を継続し、守谷市と連携を取りながら振興活動も進めていきます。



投げ方教室

■ 陸上競技部・ラグビー部

1972年創部の陸上競技部は、各種駅伝やマラソン大会に出場しています。また、1988年から選手と市民ランナーのふれあいの場として「ヤクルトランニング教室」を開催しています。

1980年創部のラグビー部「ヤクルトレビンズ戸田」は日本最高峰のラグビーリーグ「ジャパンラグビー リーグワン」に参入し、埼玉県戸田市をホストエリアとして活動しています。ホストエリアの活動として行政や所轄警察署との協働によるイベントの開催や、戸田市在住の方を対象とするラグビー教室の実施など、地域振興とラグビーの普及、健康増進に貢献しています。

■ ヤクルトマラソンの開催(フィリピン)

フィリピンヤクルトは、毎年10月に「ヤクルトマラソン」を開催しています。アクティブな生活を送ることによる健康増進の啓発を目的とした大会で、32回目の開催となる2024年は約8,000人が参加しました。

環境保全

■ 清掃活動

各工場では、工場周辺や近隣の河川や公園、神社等の環境美化活動を自主的に実施しています。2024度は68回の実施、653人の参加となっています。また、地域主催で行っているグリーン活動等にも積極的に参加しています。

中央研究所では、所員によるクリーン活動を毎月第2木曜日に実施しています。2024年度は9回の実施、176人の参加がありました。その他、子どもを対象に自然に親しむ楽しさを体験してもらう「多摩川探検隊」等、次世代育成につながる活動にも協賛しています。

■ リサイクルフェア

本店ビルおよび一部の事業所では、社会貢献活動の一環として毎年「リサイクルフェア」を開催し、社員からの寄付金と書籍の売却益の全額を公益財団法人オイスカの「子供の森」計画に寄付しています。2024年度は11万7,003円を寄付しました。また、マッチングギフト(集まった寄付金に対して会社が同額または一定の割合を上乗せすること)として、同計画に10万円(上限)を寄付しました。

Contents

- 02 サステナビリティレポート2025について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 09 ヤクルトのはじまり

11 ヤクルトのサステナビリティ

27 環境活動報告

- 28 環境マネジメント
- 35 気候変動の緩和と適応
- 46 持続可能なプラスチック容器包装の推進
- 51 持続可能な水資源管理
- 54 生物多様性の保全
- 57 廃棄物・食品ロスの削減

59 社会活動報告

- 60 安全・安心な製品と情報の提供

65 地域社会との共生

- 70 強靱で持続可能なサプライチェーンの構築
- 78 地域に根差した健康の普及
- 80 多様な健康ニーズに応える健康価値の創出
- 84 従事者の健康・安全・安心
- 91 ヤクルトレディに対する取り組み

- 92 新しい価値を提供できるイノベーター的な人材の育成
- 95 従事者の多様性の尊重
- 99 人権

- 106 顧客満足

109 ガバナンス報告

- 109 コーポレートガバナンス
- 116 リスクマネジメント
- 118 コンプライアンス
- 121 第三者意見
- 122 外部からの評価
- 123 ESGデータ集

社会的弱者への支援

ヤクルトグループの事業活動は、SDGsの各目標への貢献に広くかかわっています。SDGsの目標の一つでもある貧困への対応は、当社グループにとっても重要な課題と認識しています。脆弱な立場にある人々に対して、当社商品の提供や、支援活動を通じて、「誰一人取り残さない」健康な生活づくりを目指し、課題解決への貢献に取り組んでいます。

■ 孤児院への寄付(インドネシアヤクルト)

インドネシアヤクルトでは、2022年から孤児院で生活する子どもたちへの「ヤクルト」の寄付活動を行っています。2024年は1施設に計9,802本の「ヤクルト」を寄付しました。孤児院に「ヤクルト」を届ける際は、商品の紹介に加えて、歯みがきの仕方を伝えるなど健康や衛生に関する指導も行っています。

■ 給食プログラムへの協賛(フィリピンヤクルト)

フィリピンヤクルトは、小学校に通う貧困家庭の子どもたちを対象とした給食プログラムに協賛しています。2024年1～2月に、商品のサンプリングとともに、栄養価の高い食事を提供することで子どもたちの健康と幸福をサポートしました。

■ 欧州における社会的弱者への支援

欧州では各国・地域がそれぞれ社会的弱者に対する支援活動を行っています。

イギリスヤクルトは、ロイヤルボランタリーサービス(RVS)と提携し、高齢者や社会的弱者が健康で快適に冬の寒い時期を過ごすための支援を行っています。暖房費の節約や健康維持のヒントのほか、栄養や腸内環境に関する情報を掲載した冊子(印刷版103,396部、デジタル版4,515,160部)を関係施設に配布しました。高齢者施設や病院、フードバンク、慈善団体などへの製品提供も継続しています。2024年度は125,960本の「ヤクルト」を寄贈しました。

イタリアヤクルトは、貧困層やホームレスを支援する団体である「オペラ・サン・フランチェスコ」「パネ・クオティディアノ」「ミラノ・シティ・エンジェルズ」等に寄付するとともに、商品が無償で提供しています。

ドイツヤクルトは2020年2月から、デュッセルドルフで貧困に苦しむ高齢者をケアする地域コミュニティ「ヘルツヴェルク」を支援しており、2024年も支援対象の高齢者に「ヤクルト」を定期的に提供しました。また、月1回開催の「ヘルシーディナー」のパートナー企業として、高齢者に無料で健康的な食事とともに、温かい雰囲気でのディナータイムも提供しています。

オーストリアヤクルトは、2020年から毎年7、8月に冷房を利用できない人に涼しい場所を提供する赤十字クーリングセンターの支援を続けています。2024年も商品や菓子類を無償で提供し、ランニングイベントにも参加しました。

ベルギーヤクルトは2023年から赤十字を支援しています。赤十字ではブリュッセルの20kmマラソンを主催しており、ベルギーヤクルトは、マラソンへの参加を呼びかけ、寄付金を集め、その資金を赤十字の活動に寄付しています。

■ 「朝食1人前」(朝ごはん活動)を支援(中国ヤクルト)

中国ヤクルトは、同国のメディアグループ「第一財經」が実施する山間部の貧困家庭の子どもたちに朝食を提供する公益活動「朝食1人前」(朝ごはん活動)に参加しています。この活動は、参加する企業が特定の日の朝食代を寄付するもので、中国ヤクルトは、2013年から12年連続で毎年5月29日の世界腸健康デーに1万元を協賛しています。2024年は、雲南省山間部の小学校4校の児童約1,500人を対象に、5月29日の朝食代の寄付と商品の提供を行いました。